

女川のまちづくりが目指したこと

～選ばれるまちをめざして～

20210625

宇野健一/(有)アトリエU都市地域空間計画室

道路、公園、河川をどのように計画するか、地方消滅が叫ばれる中、その戦略的プランニングとデザインが極めて重要。大切なことは、

- ①その街・地域にしかない価値の創造
- ②地形や自然資源の継承と徹底的活用
- ③残された諸施設との関係性の強化

つまり、地方衰退が加速化する中で、生き残りをかけた“商品”としてのまちの価値をいかに最大化するかという視点が厳しく問われなければならない
＝「選ばれるまちづくり」という視点の重要性

見直しの初期スケッチ

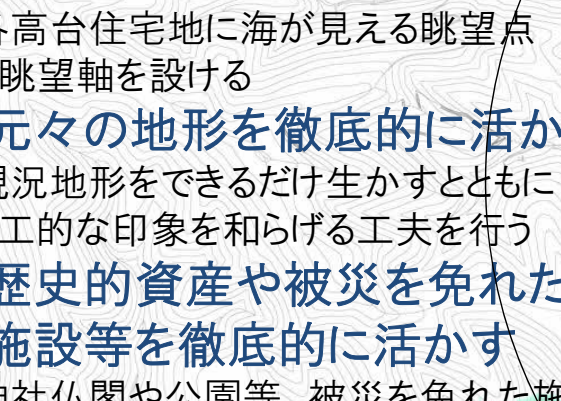


マスタープラン見直しの基本的視点

コンセプト

どこからでも海が見える
住みたい、訪れたい、自慢したい
身の丈に合った街をつくる

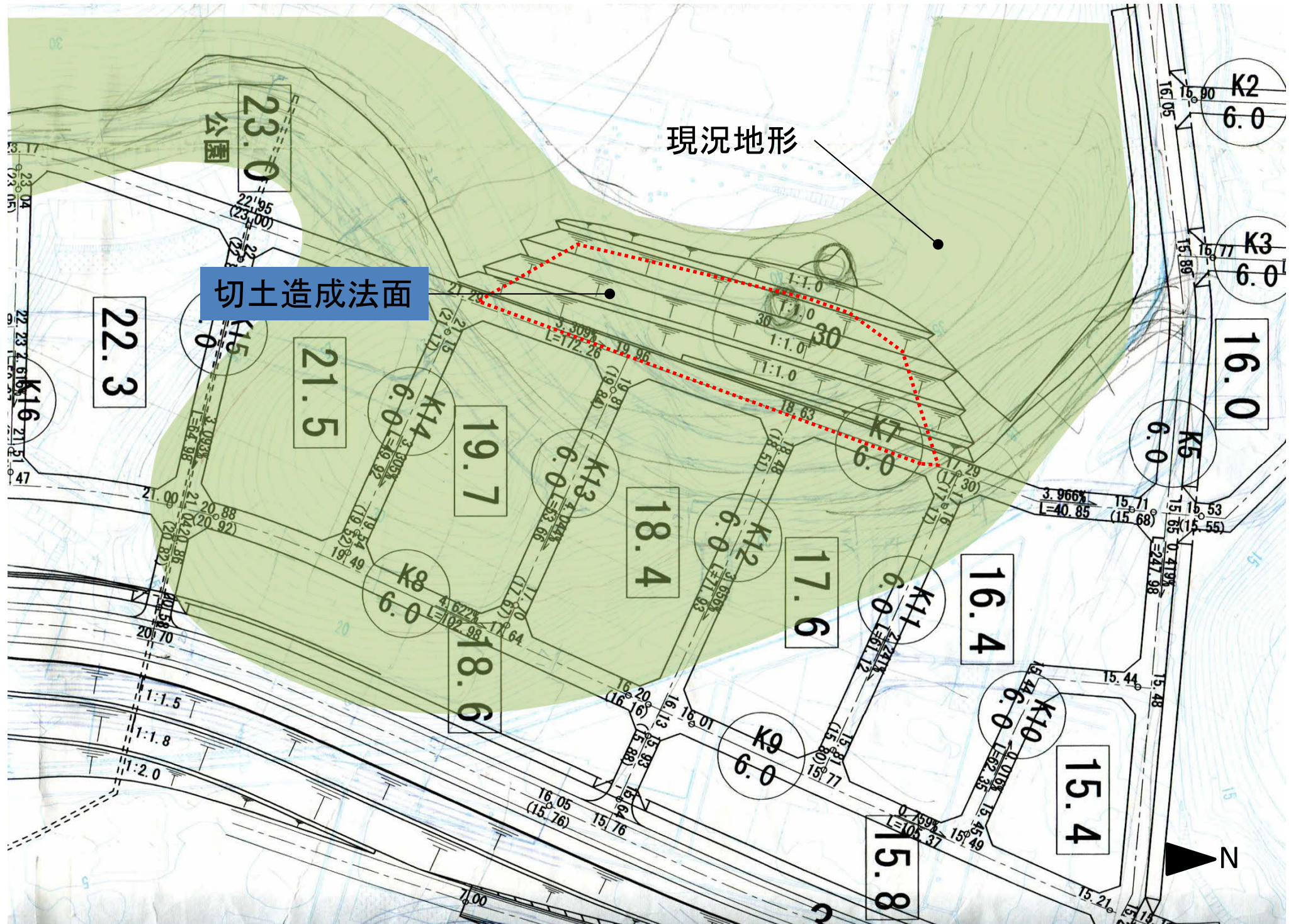
3つの基本方針

- 
- ①海の存在を徹底的に活かす
→各高台住宅地に海が見える眺望点
と眺望軸を設ける
- ②元々の地形を徹底的に活かす
→現況地形をできるだけ生かすとともに
人工的な印象を和らげる工夫を行う
- ③歴史的資産や被災を免れた公
共施設等を徹底的に活かす
→神社仏閣や公園等、被災を免れた施設
と新しく整備する街との関係性を強化する

「稼ぐインフラ」
という視点の重視



清水地区の法面形状の見直し（原案）

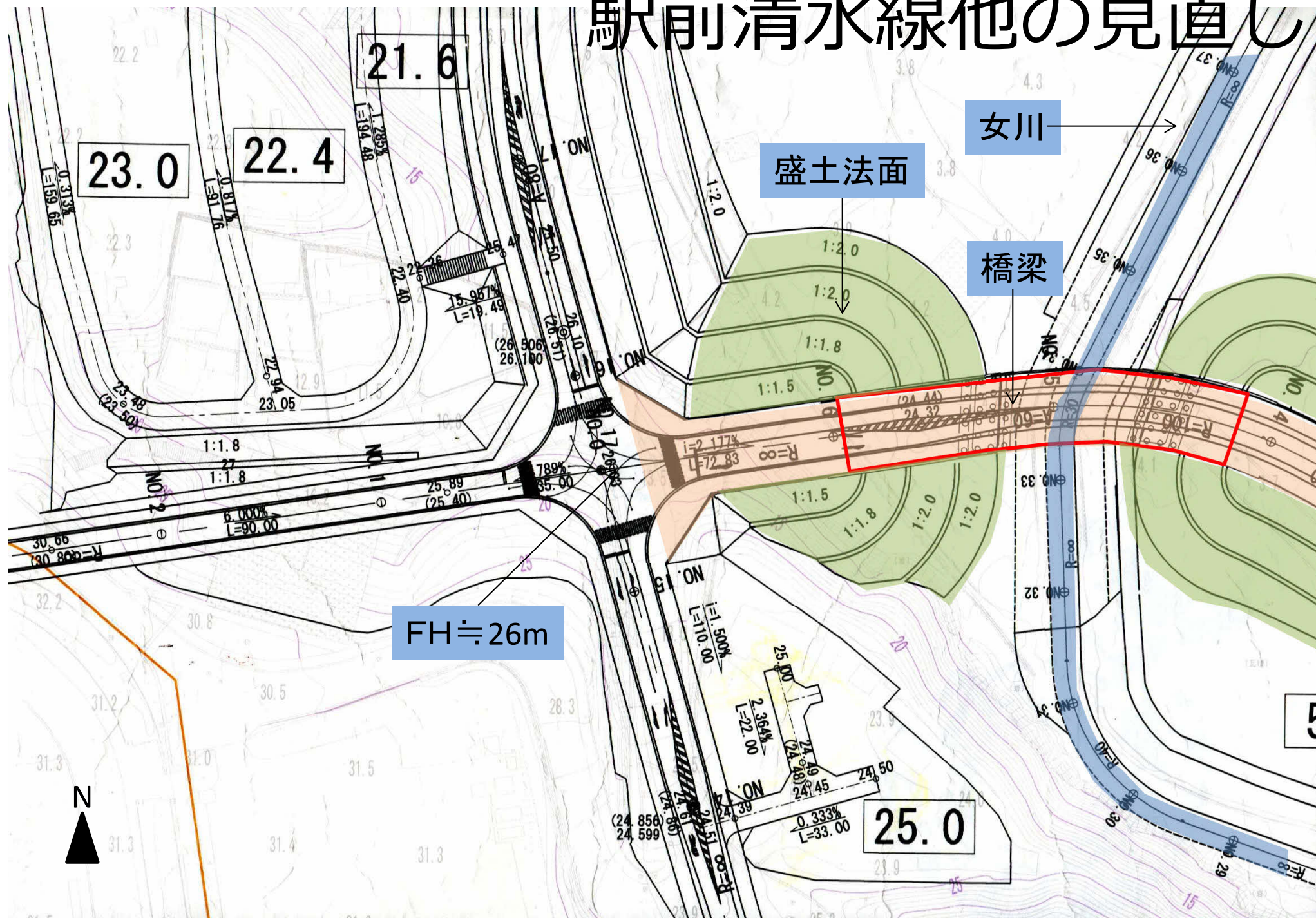


見直し案 スケッチ

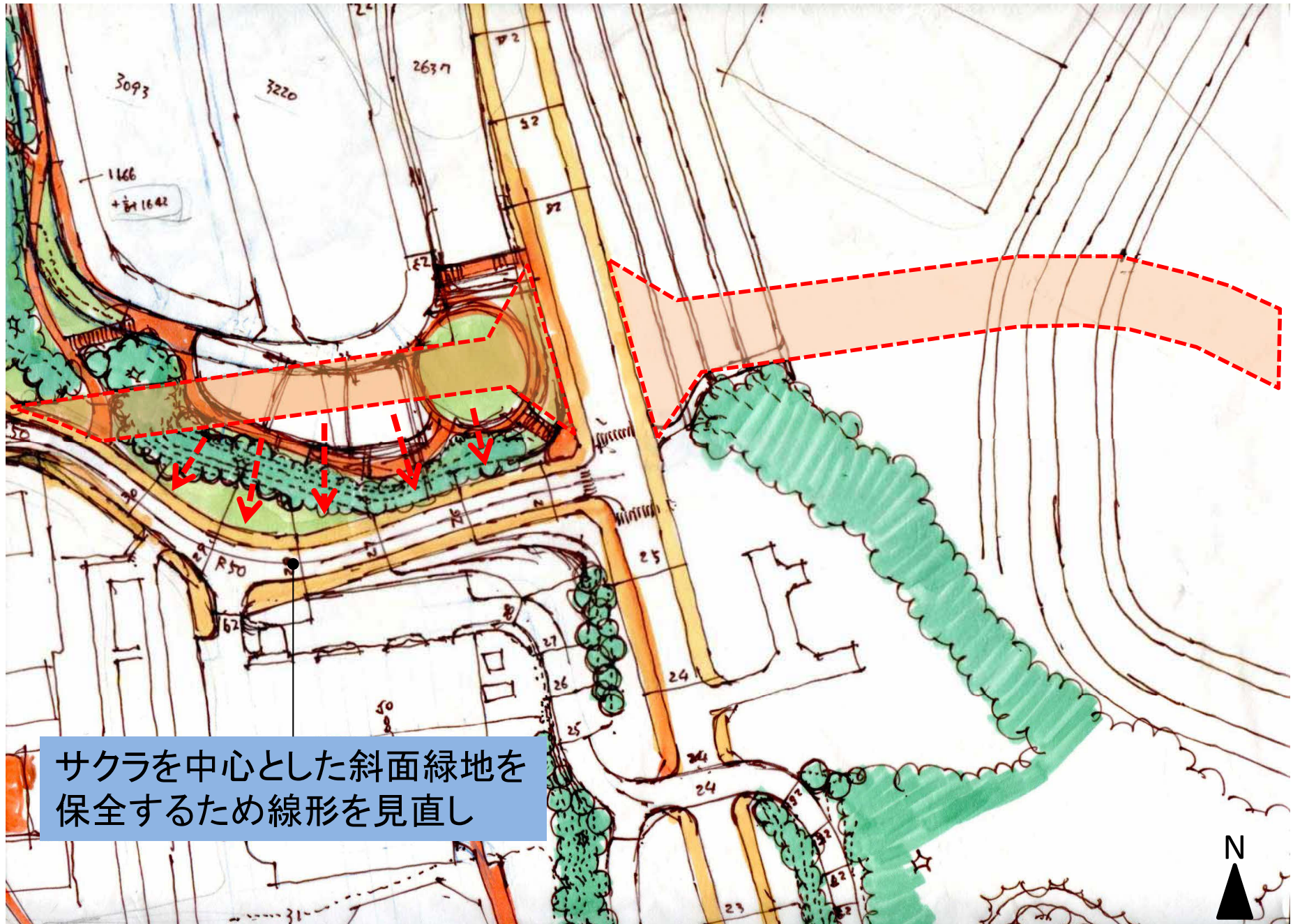


地形の読み込みが甘く過剰な

駅前清水線他の見直し



見直し案 スケッチ



女川湾を望む展望ポイント
高台は女川湾に視線が抜ける眺望ポイントです。

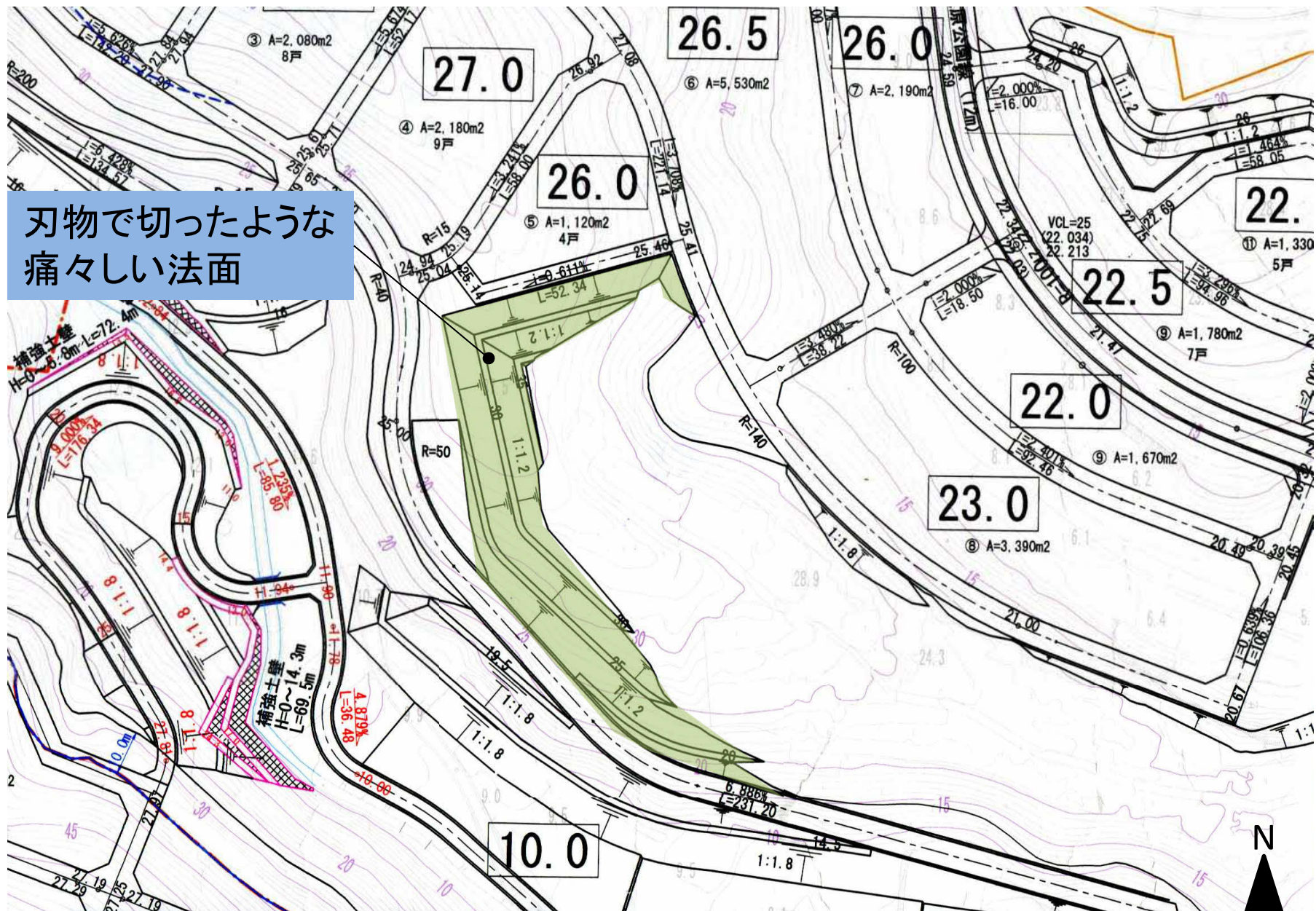
ラウンディングされた法面

住宅地の背後の切土法面はエッジが現況の地形に緩やかな曲線で擦り付けられています。数年後緑化された後は現況の地形と馴染んで圧迫感が軽減されます。

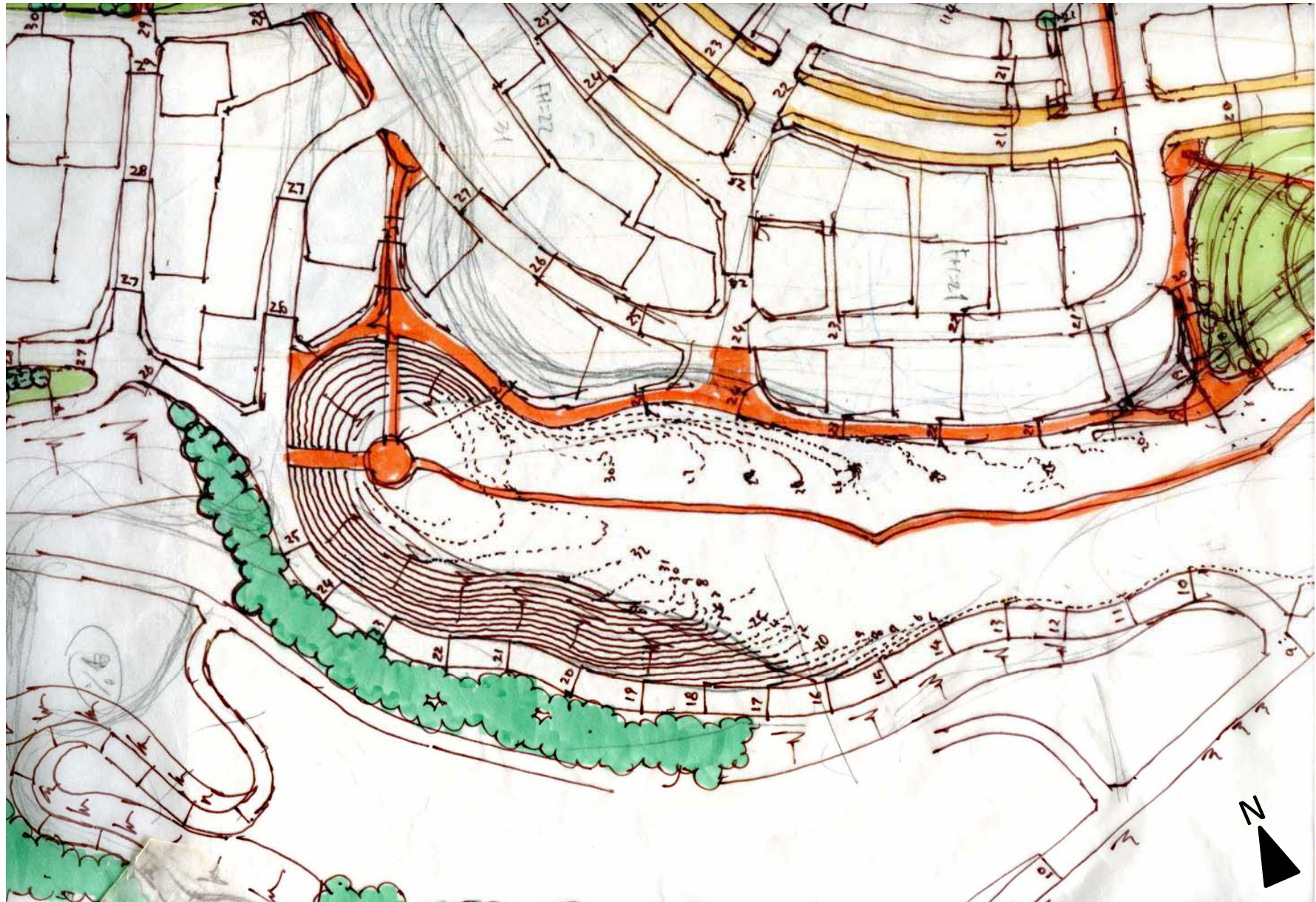


地域集会所
清水・日蔭地区のコミュニティ活動を担う公園と一体となった集会所が予定されています。

墓地背面の法面形状の見直し



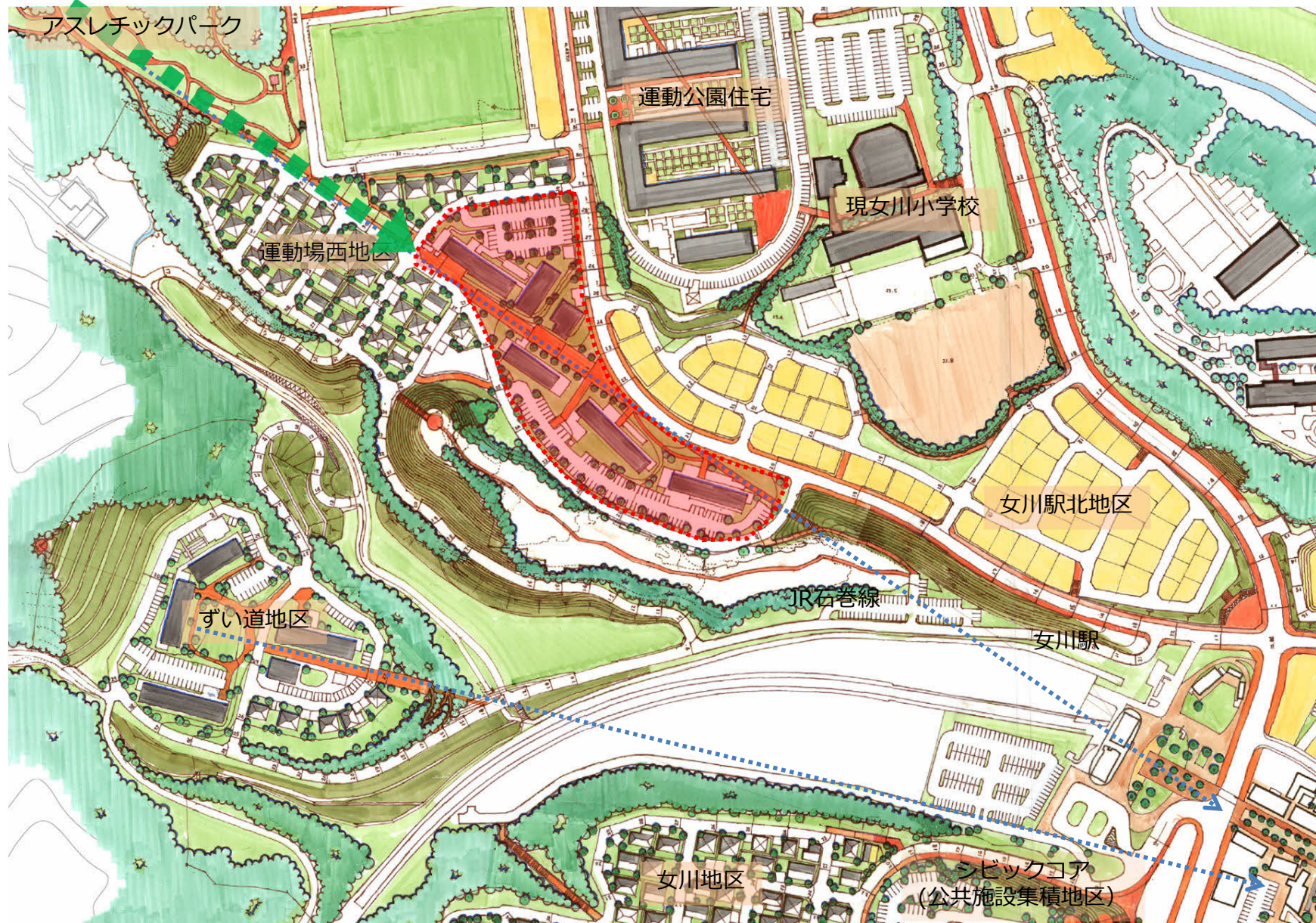
ラウンディング案



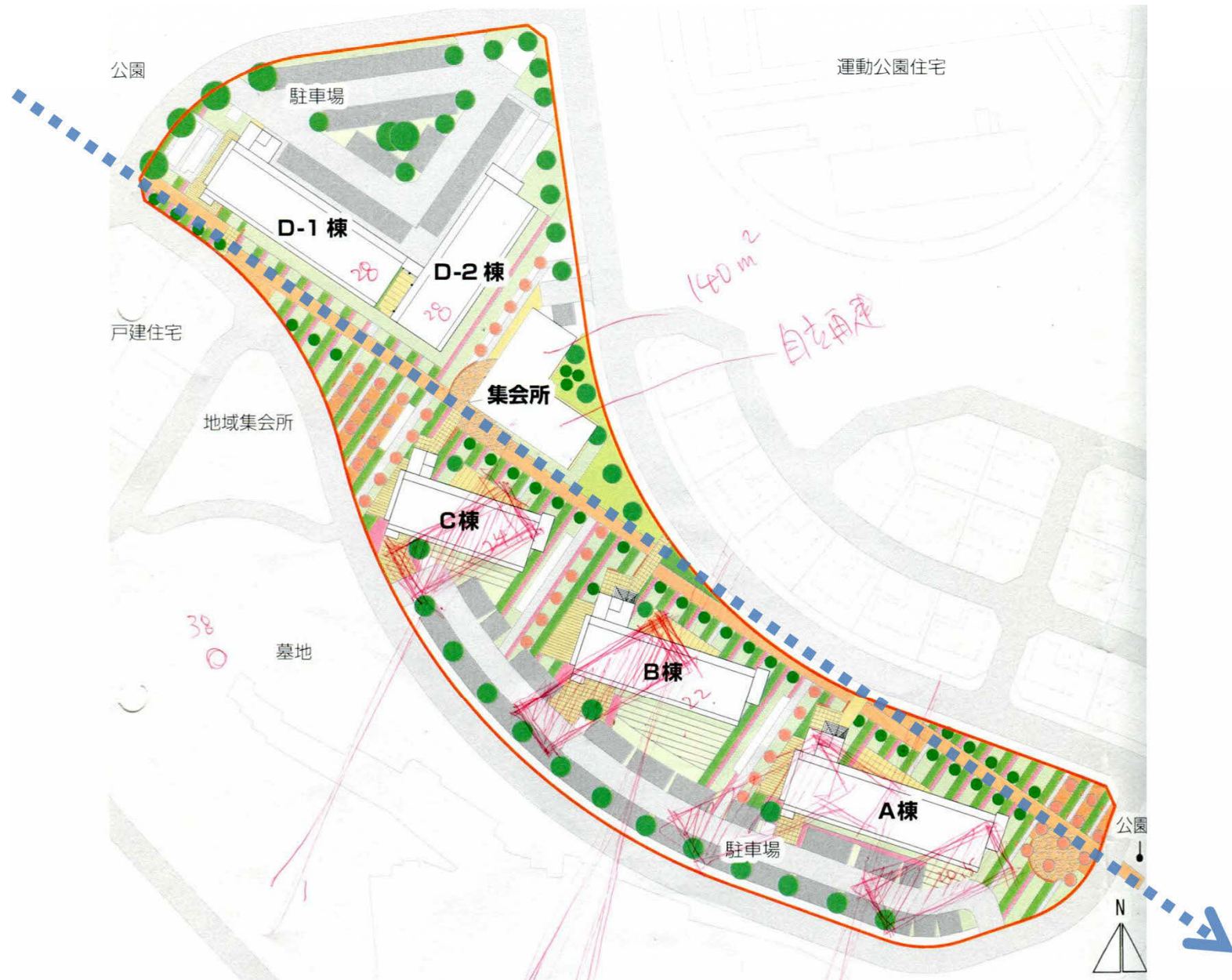
ラウンディングされた法面



既存公園の市街地への貫入と災害公営住宅の誘導による眺望軸の確保



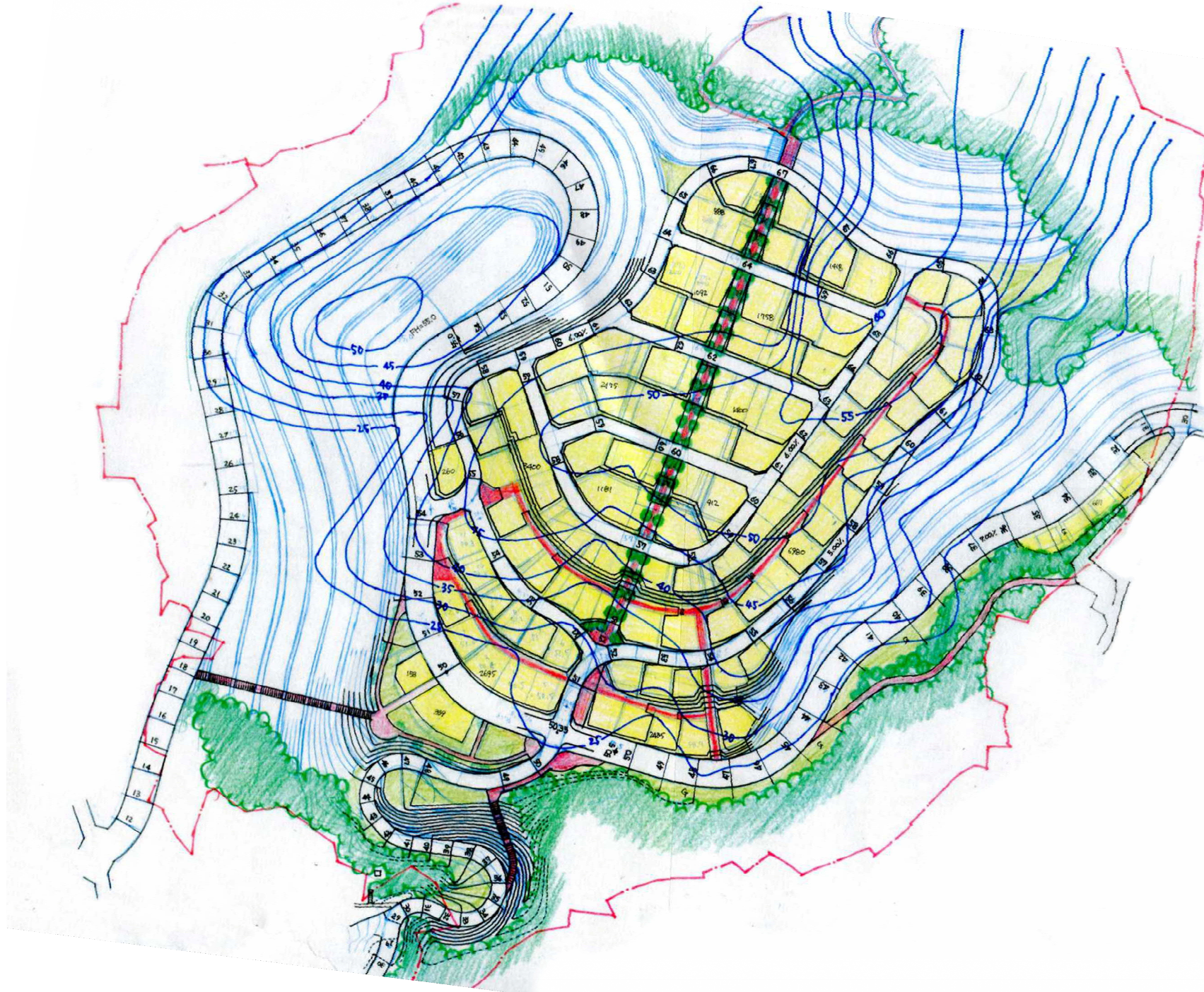
災害公営住宅計画との連携



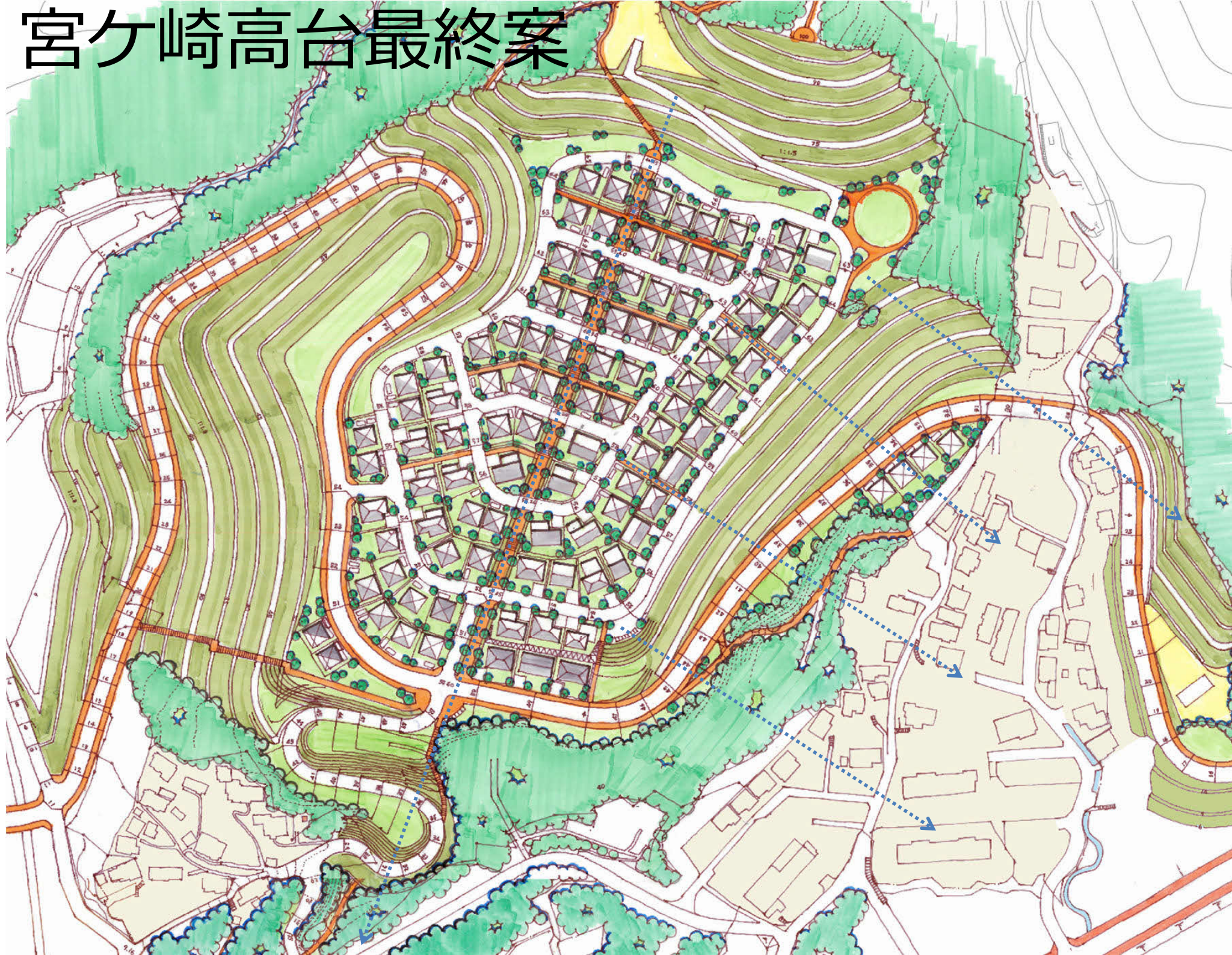
災害公営住宅の計画誘導により 確保された女川湾への眺望 (女川町+UR都市機構)



原設計案に対する修正提案



宮ヶ崎高台最終案



宮ヶ崎高台眺望軸

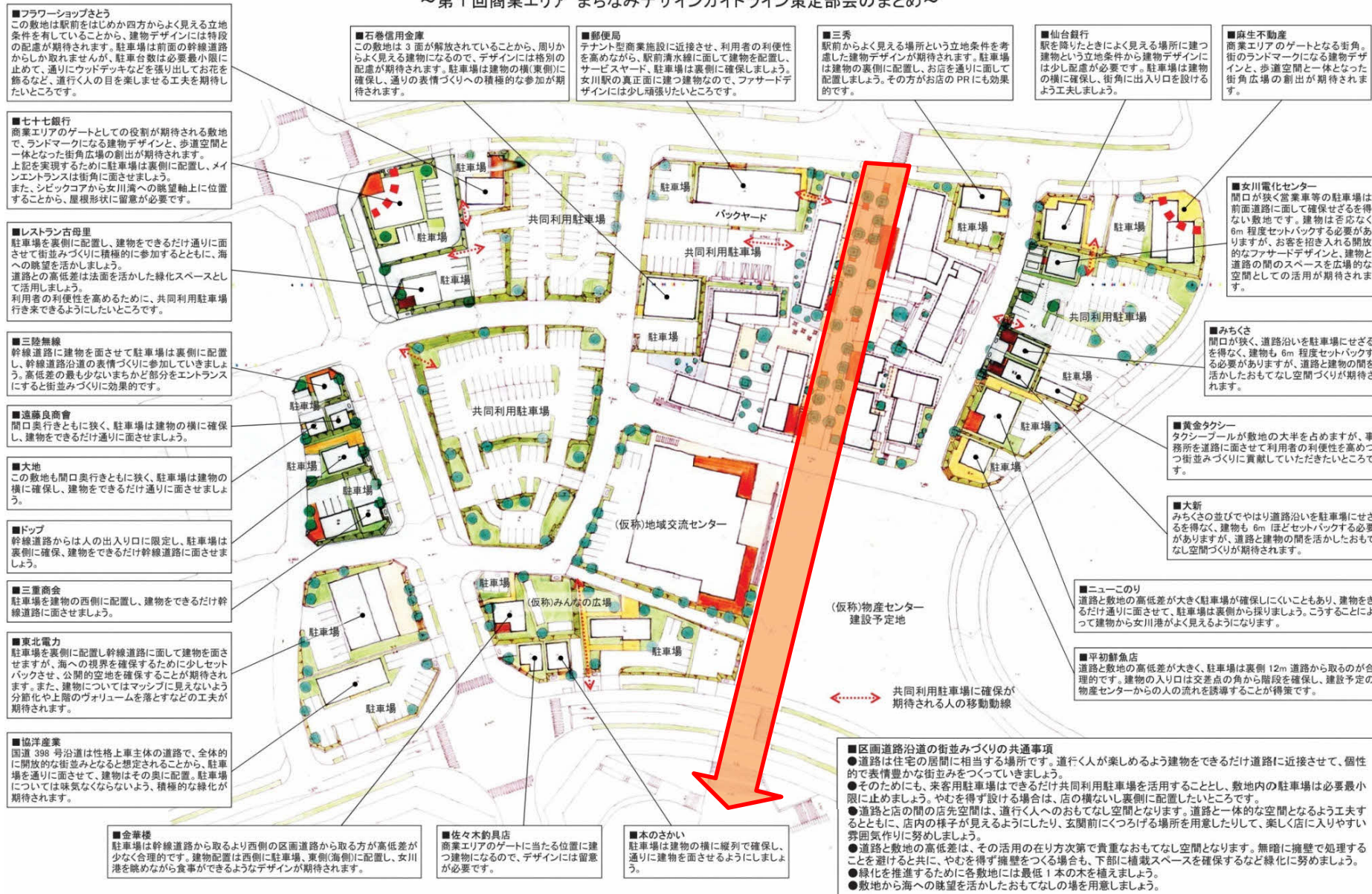


低地部から見る宮ヶ崎高台

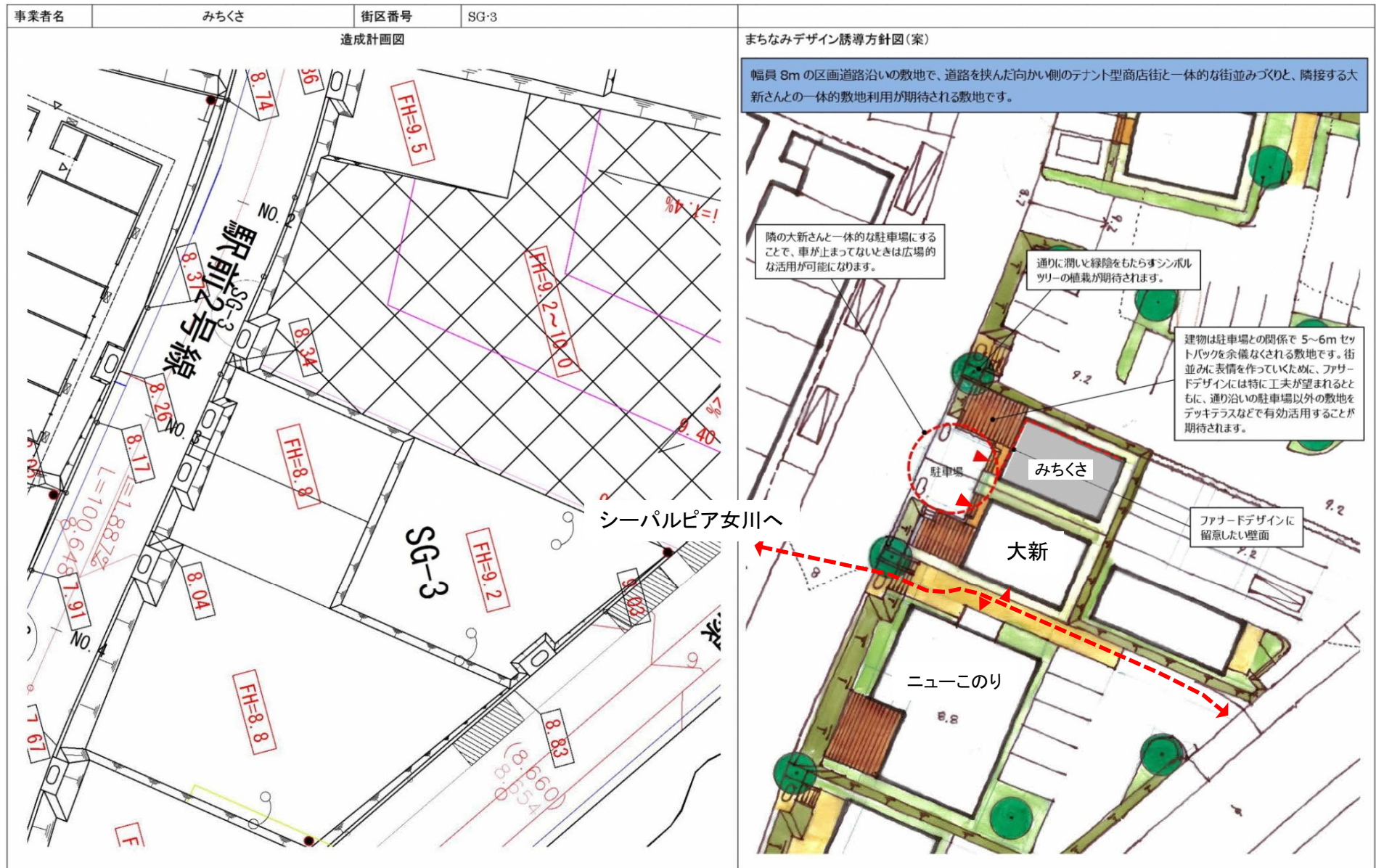


駅前商業エリアのまちなみデザイン誘導

まちなみデザイン誘導方針図(案) ～第1回商業エリア まちなみデザインガイドライン策定部会のまとめ～



敷地別まちなみデザイン誘導カルテ



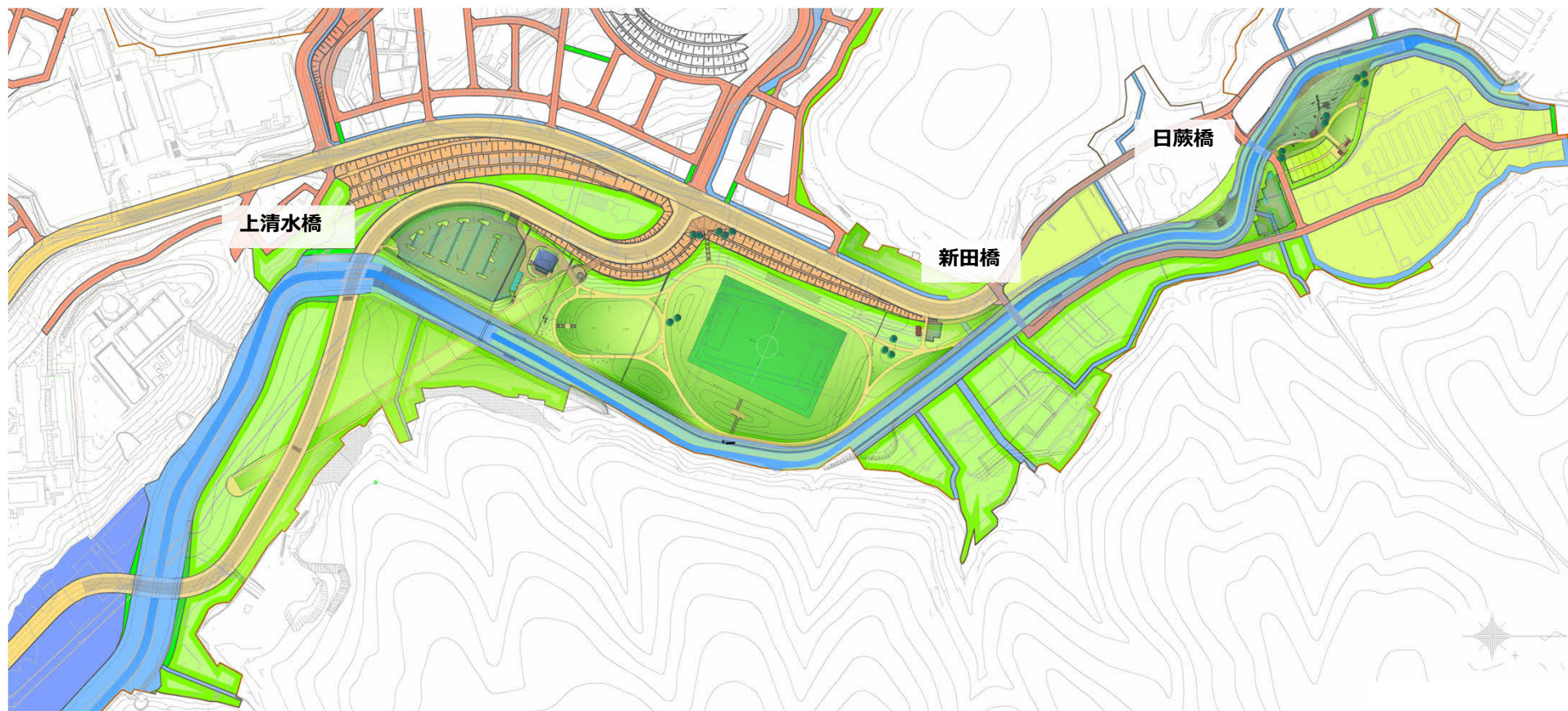
カルテに従って生まれた店舗と路地



5. 川まちづくり検討部会

(1) 川まちづくり検討部会の対象範囲

- 二級河川女川の基本設計・詳細設計、清水地区公園づくり構想、町民参加によるまちづくりWGの提言を踏まえ、水辺の価値をいかした女川町としての総合的なまちづくり計画を検討
- 多自然型川づくり、親水空間整備に向けて、上清水橋から上流の止野川合流点までの護岸形状見直し案を県に提案



5. 川まちづくり検討部会

25

(2) 川まちづくり検討部会の成果

多自然型川づくり

- 川本来の自然性（川らしさ、生態系の豊かさ）を保全、再生する
- 川と人との関わりが豊かな場所とする

護岸の形状

- 瀬や淵、水際植生などの多様性による川らしさ生むために、5分勾配の単断面に変更
- 護岸に天端コンクリートを打設するものの、土羽仕上げとすることで、植生の回復

